

# JVA シンポジウム

~For the future of  
Japan wine

## アジェンダ

### ◆開会の挨拶

(一社) 日本ワインブドウ栽培協会 代表理事 鹿取みゆき

### ◆基調講演

日本ワインの可能性、およびJVAの活動意義  
レッドブリッジ代表取締役社長 MW 大橋健一

### ◆(一社) 日本ワインブドウ栽培協会の活動内容のご説明

(一社) 日本ワインブドウ栽培協会 代表理事 鹿取みゆき

### ◆栽培の現場からーパネルディスカッション

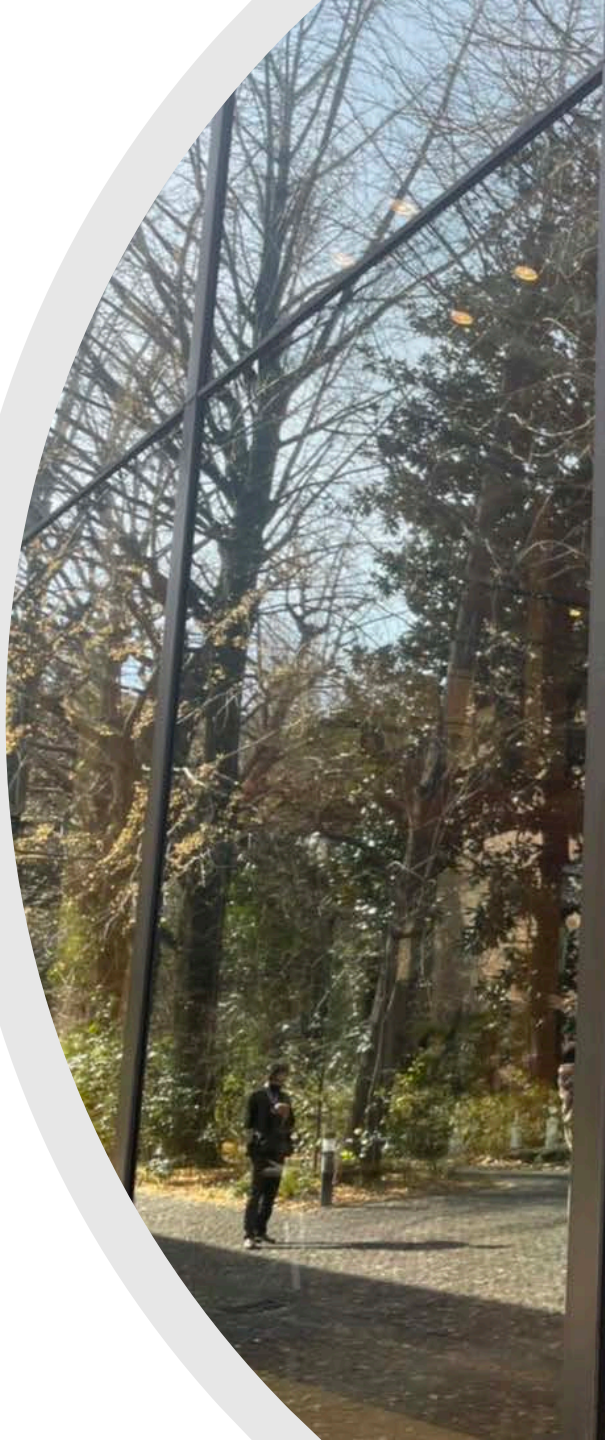
メジャー品種の栽培と醸造の課題

楠茂幸、小山田幸紀、小西超、安蔵光弘

メジャーではなかった品種の栽培と醸造の課題

古屋浩二、掛川史人、酒井一平、ブルース・ガットラヴ

東京大学  
弥生講堂  
YAYOI AUDITORIUM  
THE UNIVERSITY OF TOKYO







会場の入り口でパンフレットとJVAワインのチラシが配られました。





# 日本ワインの可能性、 及びJVAの活動意義

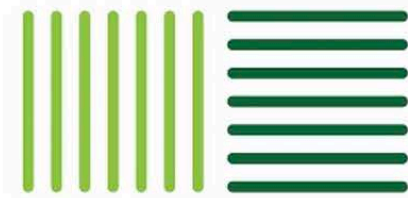
(株)山仁 代表取締役社長  
(株)Red Bridge 代表取締役  
大橋健一MW

2023年1月6日  
東京大学弥生講堂





# (一社) 日本ワインブドウ栽培協会の活動内容 ～日本ワインの 未来のために



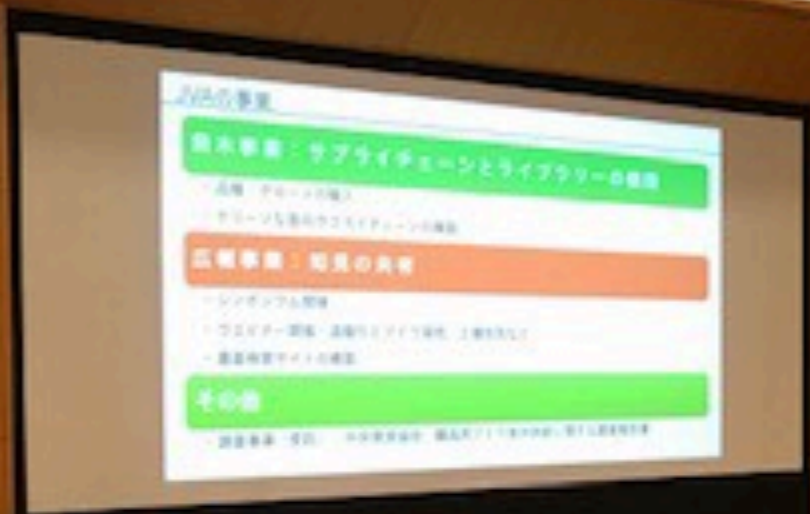
Japan  
Vineyard  
Association

(一社) 日本ワインブドウ栽培協会

代表理事 鹿取みゆき

2023.1.6

[katori@jvine.or.jp](mailto:katori@jvine.or.jp)



2024の事業

**最先事業：サプライチェーンとライブラリーの構築**

- 品揃・サービスの拡大
- サプライチェーンの強化とコスト削減の推進

**広報事業：知見の共有**

- シンポジウム開催
- 「フェスティバル」開催・読者のためのイベント開催、上場記念イベント
- 読者体験サイトの構築

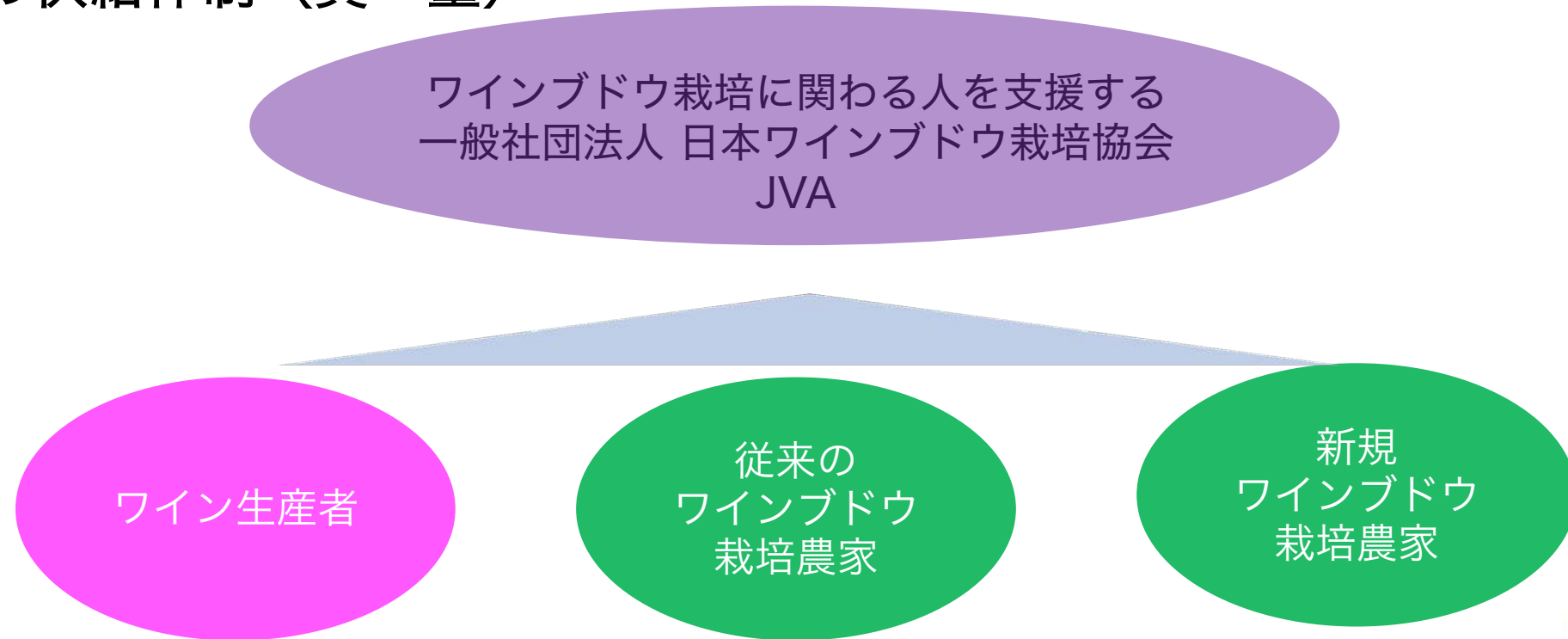
**その他**

- 読者募集・育成、中小企業向け、個人向けにサービスを提供

## ワイン造りの根幹であるブドウ栽培を支える体制が脆弱

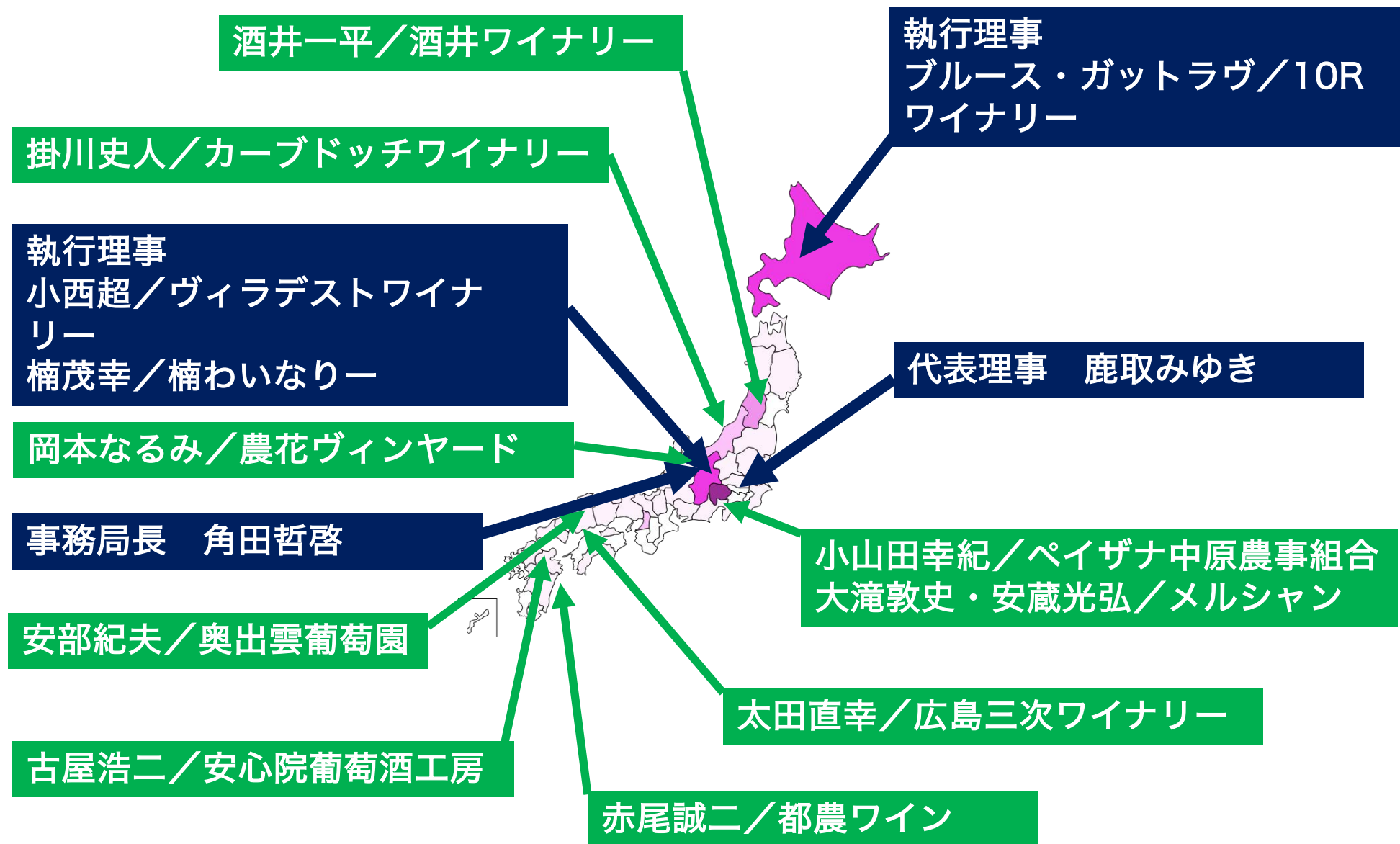
✓ブドウ栽培（土地、品種、栽培、病害虫など）についての知見の共有が不十分

✓苗の供給体制（質・量）





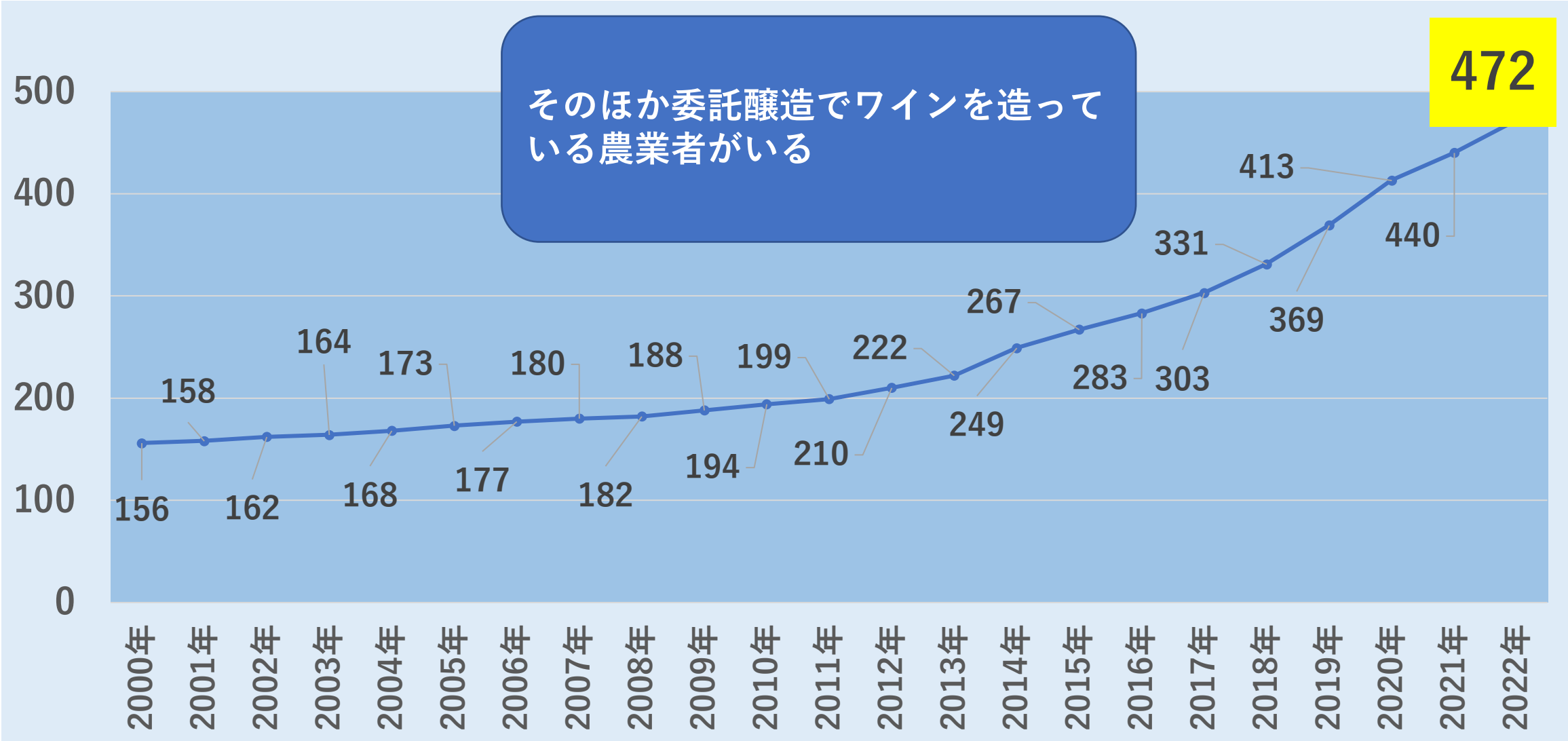
# JVAの理事 12人の理事



今の日本ワイン産業の  
実情は？



# 全国ワイナリー数の推移（2022年 10月末現在）



2014年以降：国税庁の酒類等製造免許の新規取得者名等一覧から計算、2016年以降：酒類製造業及び酒類卸売業の概況

ワイナリーの半数近くー設立されたばかり  
ワイン用ブドウ栽培者ー新規就農者が多い

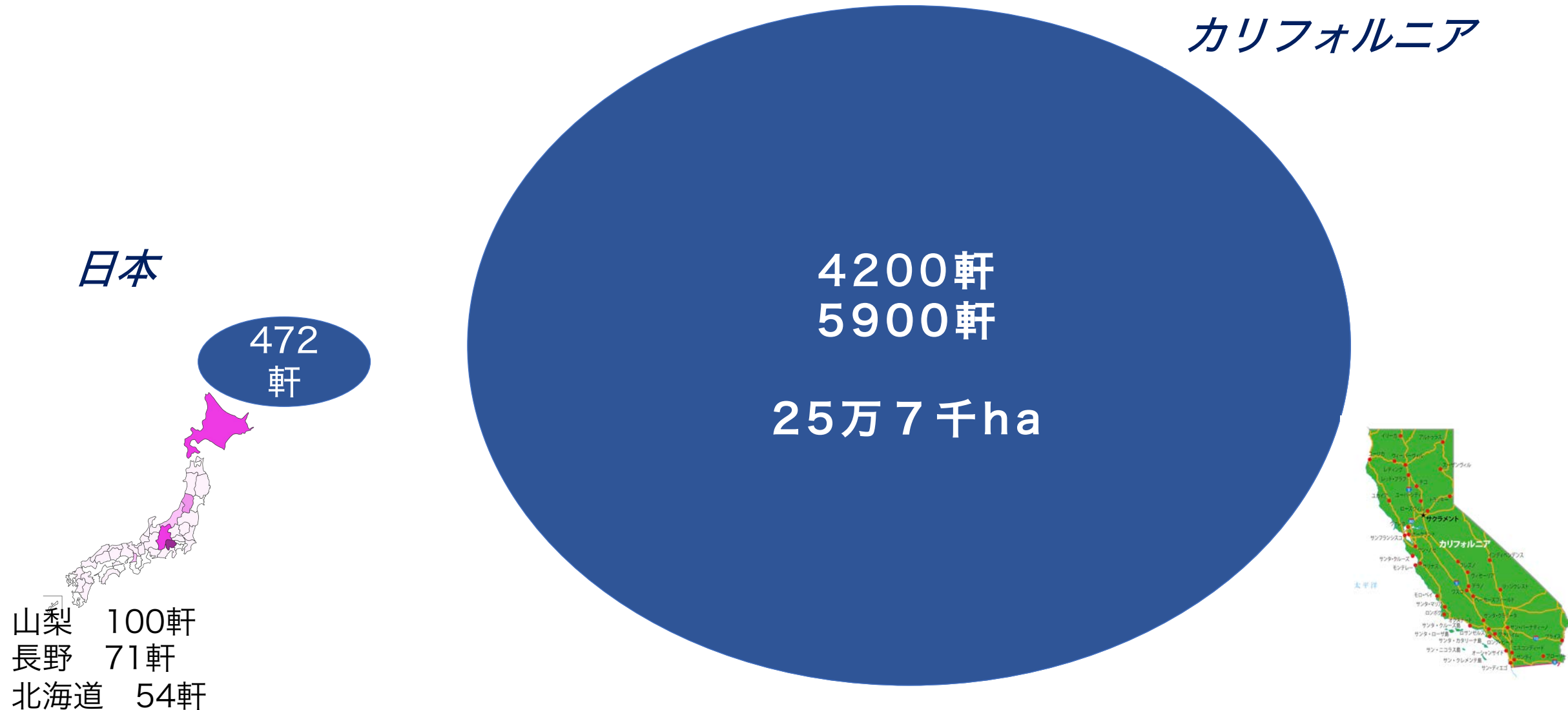
ワイン・ワイン用ブドウの生産者の  
経験値は必ずしも高くない

何を植えるべきか、わからない  
好きな品種だから植える  
(苗木商談)



470軒は多いのか？

# 日本 VS カリフォルニア





**日本ワイン産業は世界のワイン産地  
の産業の規模に比べて小さい**

**都道府県レベルではなく  
全国レベルの組織が必要**

## 苗木事業：サプライチェーンとライブラリーの構築

- ・ 品種・クローンの輸入
- ・ クリーンな苗のサプライチェーンの構築

## 広報事業：知見の共有

- ・ シンポジウム開催
- ・ ウェビナー開催：温暖化とブドウ栽培、土壌改良など
- ・ 農薬検索サイトの構築

## その他

- ・ 調査事業（受託）：中央果実協会（醸造用ブドウ苗木供給に関する調査報告書）

# 危いワインブドウ栽培の根幹

生産者が必要かつ多様かつクリーンな  
品種（クローン）・台木が入手できない

国内におけるウイルスの広がり

生産者におけるウイルスに関する  
知識の欠如

ワインブドウの品質の担保・  
環境へやさしいブドウ栽培の実践  
が難しい



# JVAの会員苗木商

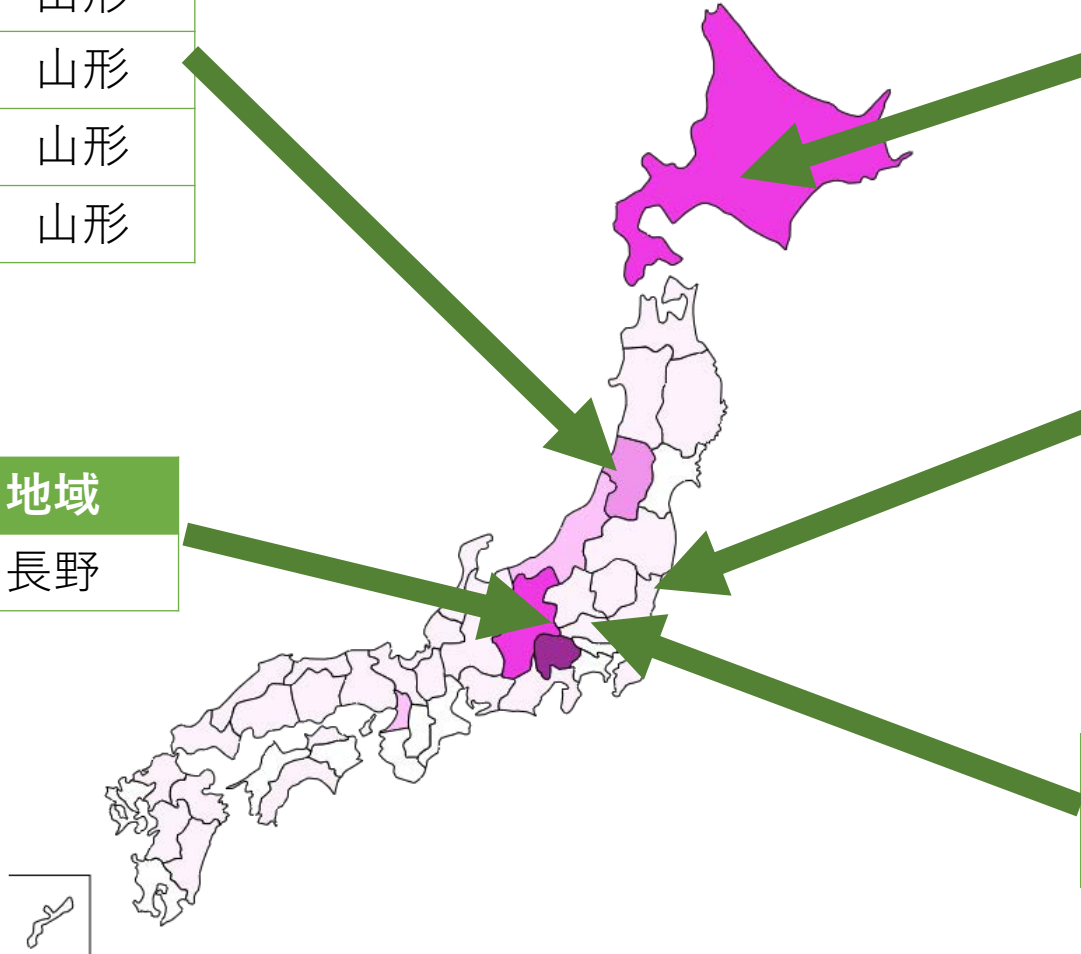
社名	地域
マルカン農園	山形
菊地園芸	山形
芦沢農園	山形
ラグフェイズ	山形

社名	地域
ニッポン緑産	長野

社名	地域
栗沢ワイン用ブドウ 苗木生産研究会	北海道
北海道興農社	北海道
北海道ブドウ苗木園	北海道

社名	地域
酒井農園	茨城

社名	地域
マザーバインズ	長野



# ワインブドウ栽培の根幹の確立

生産者が必要かつ多様かつクリーンな  
品種（クローン）・台木が入手できない

サプライチェーンの  
確立

国内におけるウイルスの広がり

全国レベルの  
ウイルス罹患調査  
全国レベルの  
有料ウイルス検査体制

生産者におけるウイルスに関する  
知識の欠如

生産者への啓蒙

**明治以前は日本では甲州と山ぶどうしかなかった**

**明治政府が100品種輸入**

**今は個人が輸入→他の生産者は使えない**



## 当面の目標

---

原木園の確立

苗木商との連携

IFV、FPS との関係強化

ウィルス実態の把握

# ワインブドウ栽培の未来

## 原木園とサプライチェーン確立

適地適性品種  
環境にやさしい栽培  
収穫量の増加  
多様で個性あるワインが増える

## 全国レベルのウイルスチェック 体制確立

ブドウの品質向上  
(糖度・酸度)  
樹齢がのびる  
収益改善



マイナー品種の導入と課題について



メジャー品種の導入と課題について





